

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 9 月 23 日現在

機関番号：32682

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2014

課題番号：24652064

研究課題名(和文)多文化共存的社会における<パブリック・アート>と<文学>の倫理的役割

研究課題名(英文)The ethical role of public arts and literature in the multicultural society

研究代表者

虎岩 直子(Toraiwa, Naoko)

明治大学・政治経済学部・教授

研究者番号：50227667

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、他者(文化)との葛藤の中で傷を受けた共同体における<芸術的イマジネーション>の役割を「文学」「視覚文化」の両面から考察した。「空間的な特定の場」を成立の要件として「メッセージ性」の強い「パブリック・アート」と、「特定の場所や時間」を作品内で描き出したとしても「空間芸術」ではない、それゆえに「空間的制限」に縛られない「文学」という、<イマジネーション>が形を取る際の二つの媒体には大きな差異がある。本研究は北アイルランドの詩人Sinead Morrisseyによる視覚芸術を中心に据えた詩を論じることによって、芸術作品の倫理的役割の差異と補償性を考察し、国内外の学会で発表、発刊した。

研究成果の概要(英文)：This research project dealt with the ethical roles of visual art works and literature in contemporary divided societies. This project mainly examined a Northern Irish poet, Sinead Morrissey's work. Morrissey's poems have consistently shown a strong engagement with space and place, and viewing. The intersection of place/space and viewing is reflected by visual art-works, especially spatial ones, such as public arts, which themselves are created for the purpose of inviting views, and the issues of space and viewing come into relief when the subject of the work is related to space/place. Reviewing visual art-works and city-scape in her poems, Morrissey suggests the space in-between or the process of being released from one occupation into another, which leads the reader to imagine a space which allows innumerable possibilities, not occupied by just one ideology.

研究分野：イギリス諸島の文学・文化

キーワード：視覚文化と文学、パブリック・アート、Sinead Morrissey、北アイルランド、芸術と倫理、パララックス、ヘテロトピア

1. 研究開始当初の背景

(1) 英国の「パブリック・アート」は1964年に誕生したと Malcom Miles は述べている (*Art Space and City*, 1997)が、その歴史はほとんど歴史の始まりからである。古代から王たちは自分の銅像や墓、勝利を示す凱旋門を建て、共同体の権力を視覚表象で示した。やがて共同体に貢献した人物の銅像や戦争犠牲者追悼の記念碑などが作られるようになる。「パブリック・アート」は特定の時代や場所、そして公の場所を管理管轄する政治権力と密接に結びついてきた。

しかし、「パブリック・アート」という言葉が使われ始めたのは、上記の Miles が英国のアカデミズムがこの用語を認識したことあら掲げている1964年よりは早い第二次世界戦後のアメリカで、芸術家を支援するために建築費用の1パーセントを「パブリック・アート」に当てるとしたことによる。用語自体認識されてから半世紀にも満たないこの領域についての批評的研究はまだ始まったばかりで、欧米では J.W.T. Mitchell の *Art and Public Sphere* (1993)あたりから本格的な批評が現れ、21世紀に入って、ホロコーストを代表とする「記憶の記録」「癒し」の考察とも結びついて「芸術の倫理」を問う重要学問領域になりつつあったが、国内では政策と結びついた「パブリック・アート」の紹介に留まっている。

(2) 本研究代表者は、萌芽研究助成研究「トランスレーションの観念」では詩による「プライベートな世界」と「パブリックな世界」の反射関係を、「記憶によるホームの想像」ではアイルランド現代詩を中心とした表象芸術における「ホーム」「共同体」の構築と、それを支える「イマジネーション」について研究し、また20-22年度にうけた「基盤研究B」では「カナダにおけるパブリック・アート」論文を作成、出版した。「芸術的イマジネーション」の役割を「文学」「視覚文化(パブリック・アートを中心)の両面から考察する準備が整っている。

2. 研究の目的

(1) 「ホロコースト」を経験した世界で、20世紀の後半以降、「記憶の継承」「慰撫」に人間は何ができるのかということが哲学・思想・表象文化など様々な人文科学領域で盛んに検証されてきた。「戦争」「紛争」「テロ」を引き起こす他者との衝突、あるいは「災害」という痛みを受けた「他者」に対し何ができるのが、「911」「311」という悲惨な出来事以降あらためて深く問われている。

本研究は、そのひとつの答えを、「他者」というものを想定して「共同体」を形成していく、ベネディクト・アンダーソンの「イマジネーション」と社会との関わりのなかから求める。

「他者」の想定を反省し、「他者」を「自

己」として考えてみる「イマジネーション」を育てることとは「痛み」の記憶の記録と共有」そして「慰撫」に運動しており、「イマジネーション」の物理的な表れは「芸術作品」として結実する。本研究は「イマジネーション」と「芸術活動」の倫理性について考察するが、その特色は、20世紀後半以降、共同体との関係性において重要視されるようになってきた「パブリック・アート」と、「詩」「小説」という、戦略的にせよ「プライベート」な内面世界を表出していくことに優れた表象芸術とを、比較しながらそれぞれの限界と相補性を検証することにある。

(2) 表層的には逆の方向に向かうこともある(「共同体」を美化する、「共同体」の抱える矛盾をあらわにする)ふたつの表象方法の関係を考察すること、そして多文化主義・多価値共存状況において多様な「自己」が存在する共同体で、「パブリック」の表象はどのようなものとなるか考察することに斬新であり、社会的意義を持つ。

「空間的な特定の場」を成立の要件として「メッセージ性」の強い「パブリック・アート」と、「特定の場所や時間」を作品内で描き出したとしても「空間芸術」ではない、それゆえに「空間的制限」に縛られない「文学」という、<イマジネーション>が形を取る際の二つの媒体には大きな差異がある。その差異が、多元化していく共同体の「パブリック」と「プライベート」の関係と、「パブリック」共同体内のマイノリティ「他者集団」に与える「パブリック・アート」の「違和」と「文学」による補償を想定し、「共同体」における文化表象の倫理的役割を考察する。

(3) 具体的研究対象としては、「帝国」として様々な異文化との接触を経験して、その結果、様々のかたちで未だ終わらない葛藤と癒し(北アイルランド紛争とその後など)を内包・外包するイギリス諸島及び、カナダを代表とするコモンウェルスの表象文化を取り上げる。視覚的表象としては共同体との意志的な結びつきとメッセージ性の強い「パブリック・アート」に注目し、直裁な政治的メッセージ性を排除する傾向が強い「現代文学」と対照する。

3. 研究の方法

本研究の主たる対象は視覚物と文学作品であり、視覚物のサイト・スペシフィック性を重要視するため、対象物が設置されている土地への出張取材は重要である。24年度は本研究者が所属大学より一年間の特別研究を許可されていたため、できるだけ広く海外での取材・研究者との情報交換に努めた。

「作品」を委嘱する機関と「作品」が設置される共同体の仲介者としての役割について「パブリック・アート」のキュレーターと数人のアート・アドミにストレイターと実作者にインタビューを実施した。25年度26年

度も夏期休暇などを使って短期出張・滞在して「視覚表象」を収集した。

また「文学作品」については研究全期間を通して、本研究者が長年研究対象としてきたアイルランド、北アイルランドの作家のほか、「他者文化」を文学的に表象している作品（民族的・性傾向的マイノリティなど）の分析につとめるほか、作家・批評家へのインタビューも実施する。対象地域の共同体の質的变化についても都市の景観などを客観材料としながら配慮して、共同体における「表象文化」の倫理を考察する材料とした。

4. 研究成果

(1) 本研究は、共同体の集団意識構築と脱構築を視覚物と文学の両面から研究することを目的とした。具体的には、多文化共存を目指すカナダの首都オタワのパブリック・アート分析と、北アイルランドの詩人 Sinead Morrissey による視覚芸術を中心に据えた詩を分析し、芸術作品の倫理的役割の差異と補償性を考察して、国内外の学会で発表、発刊した。研究成果はいかに詳述する。

(2) 24年度は1年間の長期研究を許可されて、英国、ドイツを中心とするヨーロッパ地域およびカナダ、インドで資料収集、インタビュー、研究を行った。4月はイングランドのサセックス大学を拠点に、パブリック・アートのキュレーターと制作者にインタビューして、昨今の公共団体の要請の特徴などについて情報を得て、国家や地域政策と芸術作品の関係についての考察資料を収集した。秋まで、旧ユーゴスラビア、ポーランド、北スペインなど民族間紛争経験地域で、紛争の傷が視覚化されている状況取材した。11月はインドで植民地支配と視覚文化についての資料を収集した。その他の期間はベルリンに滞在し「癒しを視覚化する」という問題について、資料収集研究を行った。

成果発表としては、7月末カナダ・モントリオールのコンコルディア大学で開催されたアイルランド文学学会で口頭発表をした。ベルファストの「建築物」「銅像」など「公共空間の視覚的デザイン」を中心に据える Sinead Morrissey の詩作品を、「パブリック・スペース」とそこに暮らす「プライベート」の意識構造の関係から論じた。「パブリック・アート」を含めて都市の外観を創造していく視覚物と、その外観とコミュニティの成員の意識との連続性・非連続性を示唆する「文学的イマジネーション」の差異を問題にした。この論文は25年度に出版された。また、カナダのケベック州を中心に多文化主義の視覚的実践について「パブリック・アート」を中心に資料を集めて、24年度末に「オタワにおけるパブリック・アートと多文化主義」として出版した。

(3) 25年度は前年度に引き続き、多文化共存を強めていく共同体がどのように創造・操作されているかということ、視覚文

化と文学の両面から資料収集を行った。

具体的成果としては、7月中旬にインスブルック大学で開かれた英語文学学会において、Morrissey の作品を分析して、共同体の中の視覚物がいかに共同体を政治的に意味づけていくか、また借用を駆使した文学作品および視覚作品が、特定の政治に支配されている共同体の実情を暴いて介抱していく力を持ちうるかということを中心に論じた。この論文は27年に出版される予定である。

7月下旬にはベルファストのクイーンズ大学で開催されたアイルランド文学学会に参加して、Morrissey の詩集 *Parallax*(2013) にお冷められた作品について論じて、「視覚」によって「真実」や「普遍的倫理」にいかにか近づくか、という問題を考察した。さらにこの論文を発展させ10月には IASIL JAPAN 学会のシンポジウムで、「視差」を意識することによって「境界」を超える視線を持つことの倫理について論じた。この発表は26年度末に出版された。

(4) 最終年度は本研究課題に関連して論文3件発行に加え、口頭発表2件と公開シンポジウムを行った。

3件の論文では Sinead Morrissey の異なった詩集を取り上げ、北アイルランド紛争終結直後から時間軸に沿って、詩人が着目する視覚対象が変化していくだけでなく、固定膠着した視点から移動していく視点を導入していくことなどを明らかにした。

口頭発表は、紛争を経験した土地に共存する対立集団のあいだの和解の可能性について、ジジェクが展開した「視差」という観念を中心に論じた。本研究は視覚的イメージの文学による借用を分析的に論じることによって、文学と視覚芸術が「現実」を反映する際について考察してきたが、最終年度の口頭発表は本研究課題を「視差」という観点へ発展させていく可能性を目指した。

また、11月には公開シンポジウム「<ヘテロトピア：異他なる空間へ-映像・景観・詩」にパネリストとして参加した。「ヘテロトピア」は、資本やテクノロジーが最大の統括規範となってきた現代世界で、フーコーによる「反=場所」としての提唱以来、規範と反規範の関係を具体的な「場所」「空間」に関連させて考察する装置として注目されてきた。本シンポジウムは文学・記録写真史・社会地理学・社会文化学・絵画映像制作、様々な角度から「ヘテロトピア」の実践を検証するものであり、具体的にはアメリカインディアン、アイヌ、圧制下のアルゼンチン、北アイルランドという、権力支配や共同体分裂を経験した共同体を空間として視覚的に考察するもので、文化メディア横断的な本研究が、さらに広がる可能性を見た。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 6 件)

1. (査読あり) 明治大学人文科学研究所紀要第76巻、「パブリック・スペースの視覚的イメージと文学: 「帝国」から多文化共存主義的空間へ—シュネード・モリッシーの詩におけるペルファストと日本の風景」虎岩直子 2015, 169-192.

2. (査読なし) 明治大学教養論集 506 巻、「アイルランド現代詩における地図について」虎岩直子, 2015, 96-120.

3. (査読あり) Jacqueline Hurlley / Michael Kenneally / Wolfgang Zach (eds.) *Literatures in English: Ethnic, Colonial and Cultural Encounters Studies in English and Comparative Literature, Vol. 24* (Tübingen: Stauffenburg Verlag). TORAIWA, Naoko, “Something is unraveling: Sinead Morrissey’s Parallax View.” 2015 予定。

4. (査読あり) 明治大学大学院教養デザイン研究科紀要『いすみあ』6号, 「シネード・モリッシーの『角窓の向こうに』における視覚芸術作品の借用について」, 虎岩直子, 2014, 160-203.

5. (査読あり) IASIL Japan, *Journal of Irish Studies XXVIII* “Portals between Here and There: Sinead Morrissey’s Uses of Visual Images,” TORAIWA, Naoko (2013), 56-67.

6. (査読あり) 明治大学人文科学研究所紀要第72冊 「視覚的形象からオタワ市を考察する—パブリック・アートを中心に」虎岩直子 (2013), 125-165.

〔学会発表〕(計 8 件)

1. 「<ヘテロトピア>—異他なる空間へ」, 虎岩直子・倉石信乃・石山徳子・林みどり・石田尚志, 立教大学, 2014年11月11日。

2. ‘Sinead Morrissey’s Parallax,’ Naoko Toraiwa, IASIL JAPAN, Waseda University, Tokyo, 11th October, 2014.

3. ‘Parallax and Body,’ Naoko Toraiwa, IASIL (International Association for the Studies of Irish Literatures), Lille University, Lille, France, 18 July 2014.

4. ‘Reframing the Place: Sinead Morrissey’s *Through the Square Window*’, Naoko Toraiwa, CISILE Conference, Innsbruck University, 19

July 2013.

5. “‘Something is unravelling’: Sinead Morrissey’s Parallax’, Naoko Toraiwa, Queen’s University Belfast, 24 July 2013.

6. Symposium: Crossing the Border, IASIL JAPAN, Kyoto Notre Dame University, 13 October 2013.

7. ‘Something strange remains: Between Here and There in Sinead Morrissey’s Poems’, International Association for the Irish Studies, 31 July 2012, Concordia University, Montreal, Canada.

8. シュネード・モリッシーによる10の詩の解説・翻訳・朗読、Sinead Morrissey・Naoko Toraiwa, IASIL JAPAN, 10月9日 明治大学。

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織
(1) 研究代表者
虎岩直子 (TORAIWA, NAKO)
明治大学・政治経済学部・教授
研究者番号: 50227667

(2) 研究分担者
()

研究者番号:

(3) 連携研究者

